
心のお花

伊勢田 業平

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心のお花

【Nコード】

N4431E

【作者名】

伊勢田 業平

【あらすじ】

ある日ミナちゃんが目を覚ますと、胸のところに蕾のお花がありました。そのお花は、楽しかったり嬉しい気持ちになると花開くのでした

ある日、ミナちゃんが目を覚ますと、赤いお花が胸のところに浮かんでいました。まだ蕾のままの、小さなお花です。

ミナちゃんはふしぎに思って、手でつかもってみました。けれど、手を通りぬけてしまっただろうと思ってもつかめません。

お布団から出て立ちあがっても、お花は胸のところにありました。「なんだろう、これ？」

ミナちゃんは、ママに教えてもらおうと思いました。

「ねえ、ママ？」

ミナちゃんはママのところまで行きました。すると、ママの胸にも赤色のお花を見たのです。

「どうしたの、ミナ？」

「ねえねえ、これなあに？」

「これって？」

ミナちゃんはママにお花を指さしましたが、どうやらママにはお花が見えないようです。

「わからないこと言っていないで、早く用意しなさい」

ミナちゃんは少し、さびしくなっていました。

小学校一年生のミナちゃんは、お家の近いお兄さんやお姉さんと一緒に学校にいきます。

そのお兄さんやお姉さんの胸にも、一輪ずつお花が咲いていました。赤もあれば黄色もあり、青もあれば、紫色まで。

「どうしたの、ミナちゃん？」

「これ……」

ミナちゃんはお姉さんにもお花を指さして教えましたが、やっぱり見えないようです。

ミナちゃんは、またまたさびしくなっていました。

けれど、同じ一年生の男の子が転んでしまった時です。ミナちゃんは擦りむいた男の子の膝を、自分のハンカチで拭いてあげました。

「ミナちゃん、優しいね」

お姉さんが誉めてくれます。

「ありがとうございます」

男の子もミナちゃんに感謝します。

するとどうでしょう、ミナちゃんの胸のお花が、少しだけ開きました。

ミナちゃんも、うれしくなりました。

学校で隣の席の子が消しゴムをなくして困っていた時です。ミナちゃんは消しゴムを貸してあげました。

「ありがとうございます」

またお花が少しだけ開きました。

両手に物をもってドアの前で困っている子がいた時です。ミナちゃんはドアを開けてあげました。

「ありがとうございます」

またまた、お花は少しだけ開きました。

廊下にゴミが落ちていた時です。ミナちゃんは拾ってゴミ箱に捨てました。

「ミナちゃん、えらいね」

先生に誉められました。

だんだんとミナちゃんのお花は、きれいに咲いてきました。

ミナちゃんは、それを見ているのが楽しみになってきました。

お家に帰ってから、ミナちゃんはママのお手伝いをしました。

「ありがとうございます」

と言ってもらえるたびに、お花はどんどん大きくなって、どんどんきれいに咲いていきました。

ミナちゃんはうれしくて、しかたがありませんでした。

けれど、ミナちゃんのお花がきれいになればなるほど、ママのお花がとて小さく感じられたのです。

ミナちゃんにはわかっていました。お花はうれしいことがあると大きく、そしてきれいに咲くのだと。

「ママはうれしいこと、ないのかな？」

と、ミナちゃんは心配になってしまいました。

夜、パパがお仕事から帰ってきました。

パパのお花も、とても小さいお花でした。

パパとママは、よくケンカをしました。

その日も、ケンカをしました。

ミナちゃんはひとりお布団のなか、パパとママの怒った声を聞いていました。胸のお花を見て、もっと仲よくしてほしいと思いました。そうすれば、もっときれいなお花になるのにと。

ミナちゃんは、パパとママのきれいなお花を見たいと思いました。すると、なんだかミナちゃんの体が熱くなってきました。まるで熱いお風呂に入っているようです。

ミナちゃんは恐くなって、パパとママのところに行きました。

ミナちゃんを見たママは、ミナちゃんのおでこに手を当てると、驚いたようでした。

そしたらパパも慌てて、ミナちゃんをお布団まではこんでくれました。

パパとママが、ミナちゃんの側にいてくれました。

ミナちゃんは苦しかったけれど、うれしい気分でした。

「ねえ、パパ、ママ？」

ミナちゃんはパパとママを見ると、お願いしました。

「ミナね、パパとママのきれいなお花が見たいの。だからね、ケンカはやめて」

パパとママのお花が、少しだけ開きました。

「ミナね、パパもママも好きだよ。だから、パパもママも好きでい

て

「ミナちゃんは、パパとママがお互いに好きでいてほしかったのです。」

すると、どうでしょう。パパとママのお花の蕾が開いて、とてもきれいで大きなお花を咲かせたのです。

「ミナ、愛しているよ。もちろんママも」

「ああ、ミナ。もちろんじゃない。好きよ、ミナ、パパ」

ミナちゃんは、パパとママに抱きしめられながら見ました。パパとママのお花を。そしてミナちゃん自身のお花を。

それは真っ赤な、とても、とてもきれいなお花で、そのお花を見ているだけで、ミナちゃんはともうれしい気持ちになるのです。幸せな気持ちになるのです。

次の日、ミナちゃんの熱は下がっていましたが、もうお花は見る事ができませんでした。

でも、ミナちゃんにはわかるような気がします。

今でも、きれいな心のお花が咲いていると。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4431e/>

心のお花

2010年10月10日00時40分発行